

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スター・ポケット（児童発達支援事業所）			
○保護者評価実施期間	令和7年4月21日～令和7年4月30日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	21名	(回答者数)	8名	
○従業者評価実施期間	令和7年4月21日～令和7年4月30日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	4名	(回答者数)	3名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月10日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の支援の中に、保育の良さをプラスし、「療保」という考え方のもと支援を行なっている。	法人独自のチェックシートを活用し、職員によって児童の評価が変わることなく、一定の基準を設けて、児童の支援にあたることができるように配慮している。	独自のチェックシートを用いて支援をしていることから、常にプラスアップし、既存のものに拘らない姿勢と対応が今後も必要と考えている。
2	幼稚園、保育園との併用をされている方にも利用しやすく、預かり型（送迎付き）であること。	児童の発達状況に合わせ、小集団での支援の実施や、時には個別での支援にも対応している。また、社会性の成長という視点から月例の違いを超えた一斉での集団活動を取り入れている。	児童にとって小集団が適しているのか、それとも個別なのか、全体を見た時に利用している皆にとってメリットはあるのかなど、利用児童全体にとっての利益となっているのかどうかを常に問いかけて支援する必要があると考えている。
3	見学や相談などの要望に柔軟に対応している。	児童がどのような1日を過ごしていたのか保護者様にも伝わりやすくするために、利用時には写真を添付した支援内容報告を行なっている。	日々の支援内容の報告が本当に保護者が求めているもののかどうか、常に意識する必要があると考えている。保護者からの直接意見を聞く機会も設ける必要がある。（今回のアンケート以外にも）

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	幼稚園保育園への送迎が多く、日々の送迎時に保護者様と直接お話をさせていただく機会が少ない。電話やメール等でのやり取りはあるが、やはり直接面と向かって伝えることでより意思疎通はできるのではないかと思う。	幼稚園保育園の併用をされている児童が8割以上と多く、保護者様に直接お会いする機会は限られていることが要因。	定期的な面談や、保護者様からのアプローチだけの受け身の姿勢ではなく、日々職員が子どもたちに真剣向き合い、より良い将来を作っていくとしている想いと同じような熱量を保護車様にも向け、共に支援をしていくういう意思を伝えることが必要。
2	障害のない子どもとの関わりの確保	法人内で認可保育園、小規模保育園を運営しているが、関わりを上手く保護者様へ伝えることができていない。	障害のない子どもと一緒に遊ぶ機会があることを連絡帳などを活用して告知する機会を意識的に増やすことが求められる。
3	保護者同士の繋がりの確保	預かり型であり、送迎も行っていることで保護者様同士が関わる機会を作ることができていない。	法人内の夏祭りなどの親子参加型のイベントを通して、保護者様同士が関わり合える機会を作る。